

## 鹿児島の昆虫35

## 羽化する昆虫

昆虫担当 金井 賢一

昆虫は、卵がふ化してから成虫になるまで脱皮しながら大きくなります。成虫になる最後の脱皮を『羽化』と言います。

羽化に注目すると、昆虫には幼虫の姿のまま羽化する不完全変態のグループと、『蛹』という期間を経てから羽化する完全変態のグループがあります。不完全変態にはトンボやゴキブリ・シロアリ、バッタやセミなどがあります。完全変態にはハチやハエの仲間、カブトムシなどの甲虫、チョウや蛾などの仲間が見られます。進化の過程では、不完全変態の昆虫から完全変態の昆虫が生じたといわれています。

完全変態の昆虫は、幼虫の時期には、とにかく栄養をとるために食べます。中にはヤマユガのように、成虫になったら口を持たず、幼虫時の栄養で飛翔・交尾・産卵まで全てまかなう種類までいます。ゲンジボタルなども



ヒメハルゼミの羽化

成虫になってからは水しか飲まないといわれています。不完全変態のグループには、このように成虫が食べない種類が見られません。

蛹の中では、幼虫時代の体が徐々に分解され、成虫になるための元となる細胞が盛んに分裂して増え、新しいからだを作り直します。ですから、幼虫と成虫では全く違う体となり、異なるエサを食べることができるのです。例えば、モンシロチョウは幼虫がキャベツなどのアブラナ科植物をかみ砕いて食べますが、成虫は2本の棒からできているストローで、液体を吸って食べます。

羽化の瞬間はとても神秘的です。突然静かに始まることが多いのでなかなか見ることができません。しかし、見ることができれば、その美しさのため息が出てしまうことでしょう。



ツマベニチョウの羽化

## 鹿児島の植物42

## 沖永良部島の植物

植物担当 大屋 哲

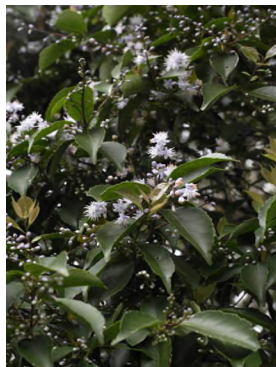
沖永良部島は、鹿児島市から約500km南にあり、隆起珊瑚礁にかこまれた島です。

3月に調査する機会があり、その際見られた奄美群島を北限とする植物を紹介します。

アオバナハイノキ ハイノキ科  
花期3月頃

林の縁などに生える常緑の樹木で、沖永良部島が北限といわれています。花は、うすい青色をしていて芳香があります。大山の道路沿いに生えていました。

ハイノキの名前は、灰汁をとるために枝や葉を焼いて灰を作ったことに由来します。



アオバナハイノキ

オキナワスズムシソウ キツネノマゴ科  
花期3月頃

喜界島が北限の植物で、林内の湿った場所に生えます。沖永良部島では、大山の谷部の湿った場所に生えていました。



オキナワスズムシソウ

オキナワスゲ カヤツリグサ科  
果期10月頃

徳之島が北限の植物で、明るい林内に生えます。小穂(花の集まり)は短く、葉の中に埋もれていることがあります。沖永良部島では、越山や大山などの林内に生えていました。



オキナワスゲ